沖縄県立芸術大学の理念、目的、目標、方針

沖縄県立芸術大学は、沖縄固有の風土によって培われた個性的な芸術文化の伝統を受け継ぎ、新しい創造的芸術文化の形成・発展を担う人材の育成を目的として 1986 年に開学しました。

開学時に示された、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追究するという建学の精神に込められた当時の思いと気概は、その後の本学の発展とともに継承され、脈々と生きています。本学は、自主的・自律的、効率的かつ公正で透明性のある大学運営を行うことで、より質の高い教育活動、研究活動、社会連携活動の実践を目的として、2021 年度に公立大学法人が設置する大学に移行しました。法人化を契機に、建学の精神に則り、教育研究における基本的な価値観や信念を示す「大学の基本理念」、「教育研究の目的」を定め、具体的内容を「大学の基本目標」に落とし込み、その実践を通じ、理念や目的等に掲げる人材育成の実現に向け、新たな飛躍を目指します。

建学の理念

日本文化の中における沖縄の地域文化の特性と伝統は、極めて特徴的であり、文化伝統の源流を探り、文化生成の普遍性を究めるために不可欠の内容をもつものである。わけても沖縄固有の風土によって培われた個性的な芸術文化の継承と創造の問題は、日本文化としてはもちろんのこと、沖縄県にとっても重要な課題であるといわざるを得ない。そして、それらを担う人材の育成もまた長い未来への架橋として緊要なことである。

県立芸術大学を建学する基本的な精神は、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追究することにあるが、そのためには、地域文化の個性を明らかにし、その中に占める美術・工芸、音楽・芸能等さまざまな伝統芸術の問題に積極的かつ具体的に取り組み、その特性を生かすことでなければならない。このことは、日本文化の内容をより豊かにするとともに、ひいては、国際的な芸術的文化活動にも寄与するものと信ずる。

我が国の最南に位置する県立芸術大学は、東アジア、東南アジアを軸とした太平洋文化圏の中心として、それらの地域における多様な芸術文化の実態と、地域文化伝統の個性とのかかわりを明らかにし、その広がりを追究し、汎アジア的芸術文化に特色をおいたユニークな研究教育機関にしたい。

大学の基本理念

沖縄県立芸術大学及び大学院は、卓越した教育研究の拠点として、沖縄文化が造り上げてきた個性の美と人類普遍の美を追究し、その成果を広く社会に還元するとともに、豊かな人間性と芸術的な創造力及び応用力を備えた人材を育成し、もって芸術文化及び地域社会の発展に貢献する。

教育研究の目的

1　大学

沖縄県立芸術大学は、広く教養を培い、深く専門芸術の技術、理論及び歴史を教授研究して、人間性と芸術的創造力及び応用力を育成し、もって伝統芸術文化と世界の芸術文化の向上発展に寄与することを目的とする。

2　大学院

沖縄県立芸術大学大学院は、建学の理念に則り、高度な芸術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて芸術文化の創造及び発展に寄与することを目的とする。

大学の基本目標

1　教育に関する基本目標

教育の質を保証し、その改善及び向上に取り組むことにより、学生の学修の達成度と満足度を向上させるとともに、県内はもとより全国から意欲のある学生を受け入れ、専門分野における特色ある実技及び理論教育を行い、地域社会と協働した学生教育を実施することにより、芸術的な創造力及び応用力を持ち、人間性が豊かで、地域及び社会に貢献できる人材を育成する。

２　研究に関する基本目標

ア　教育や社会貢献の源泉となる教員自らの研究水準を高めるとともに、各専門領域及び各組織の間で連携して行う研究を推進する。

イ　沖縄文化が造りあげてきた美術、工芸、音楽、芸能等様々な芸術文化の課題やニーズに対応した研究を積極的に行うことにより、その成果を教育に反映させるとともに国内外に広く発信する。

３　社会貢献等に関する基本目標

専門分野における特色ある実技及び理論教育による優れた人材の育成に努めるとともに、沖縄県や他の自治体、他大学、民間企業、地域の文化施設、試験研究機関等との多様な連携による地域の課題やニーズに対応した取組を推進し、その成果を広く地域及び社会に還元する。

大学《学士課程》の３つの方針（ポリシー）

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

沖縄県立芸術大学では、大学及び各学部の教育理念に沿った専門教育と教養教育において成果をあげ、最終学年における卒業作品又は卒業論文の提出あるいは卒業演奏を経て、所定の卒業単位を取得した学生に対し、学士（芸術）の学位を授与します。

その際、学生が獲得しておくべき学修成果は以下のとおりです。

１　美術工芸又は音楽の分野における基本的な知識を体系的に理解し、その知識体系の意味と自己の存在を歴史や文化、社会と関連付けて理解している。

２　知的活動や職業生活、社会生活においても必要となるコミュニケーション能力、論理的思考力、問題解決力などの汎用的基礎能力を身につけている。

３　卒業後も社会的責任を認識し、生涯を通じて自律的に学び続ける能力を身につけている。

４　１から３までの知識や能力等を総合的に活用し、創造的な思考力をもって自らの課題を探求し、解決する能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

沖縄県立芸術大学のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を獲得できるよう、４年間を通して全学教育科目を選択履修し、全学年にわたり専門分野の実技や理論を基礎から高度な内容まで、段階的に履修することを基本に授業科目を編成します。

その上で、さまざまな技術や学問を幅広く主体的に学べるよう配慮し、学生の多様な個性を尊重しつつ、自ら感性を磨き、社会との関係を考え発信していく能力を高める教育を行います。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

１　教育の理念

沖縄県立芸術大学の建学の基本的な精神は、沖縄文化が造り上げてきた個性の美と人類普遍の美を追究することにあります。これに基づき、伝統芸術の継承と発展にとどまらず、新

たな芸術創造の可能性を広げ、幅広く芸術分野で活躍できる人材を育成していきます。さらに、学生の専門的力量を高め、豊かな人間性と社会性を身につける教育を目指します。

２　本学の求める人材

・本学の教育の理念をよく理解し、学習に必要な基礎的知識・技能を備えている人
・芸術に強い関心があり、自ら課題を発見し解決するための思考力や判断力、表現力を備えている人
・多様な芸術文化に興味を持ち、主体的に人々と協働し、現代社会に向けて新しい芸術創造の営みを発信していく意欲に満ちた人

３　入学者選抜区分

・本学では一般選抜、学校推薦型選抜及び社会人選抜を実施します。

４　入学者選抜試験の基本方針と実施

・一般選抜においては、大学及び各学部のアドミッションポリシーに基づき、大学入学共通テストの成績を利用した選抜試験と個別学力検査等（実技検査、小論文、口述試験、面接等）を実施します。なお、大学入学共通テストについて、美術工芸学部では、国語、外国語及びその他任意の１科目の合計３科目を試験科目として課します。音楽学部では、国語、外国語の合計２科目を試験科目として課します。
・学校推薦型選抜においては、実技検査、小論文、面接等を実施します。
・音楽学部の社会人選抜においては、個別学力検査等（専攻試験、小論文等）を実施します。

いずれの試験においても、本学での学習に必要な「学力の３要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等）」を測り評価します。

大学院《造形芸術研究科》の３つの方針（ポリシー）

教育理念・目標

造形芸術研究科は、造形芸術の各分野における高度な専門的能力を養成することを目的としています。その上で、建学の理念に則り、沖縄の伝統芸術の技法的特徴や、それらを生成した歴史的・文化的・風土的特性等にも配慮した高度な実技教育を行うとともに、芸術の普遍性の見地から、ひろく東西の美意識に関わる哲学的・美学的・文化的反省に立つ芸術教育を行います。また、沖縄を中心とした南島文化の多様な実態と伝統芸術文化の特色を解明するために、それらを歴史的・理論的に追究する比較芸術学、民族芸術文化学の観点から、汎アジア的広がりにおける東洋芸術文化の学際的な教育を行います。

これらの教育活動を通じて、芸術文化に対する深い理解と感性をもち、創造力豊かで、将来の社会における造形芸術分野の幅広い実践活動を担う作家や研究者、芸術教育の専門的指導者となり得る人材の育成を図ります。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

造形芸術研究科の教育理念・目的に沿った教育課程で成果をあげ、修士作品もしくは修士論文の審査および試験に合格し、所定の単位を取得した学生には修士（芸術）の学位が授与されます。学生が在学中に到達する目標は以下のとおりです。

１　より幅広い視野から芸術を理解する学識を身につける。
２　より高い専門分野における研究能力を身につける。
３　専門分野における知識・技術を応用し、幅広い分野で活躍し、社会に発信する力を身につ

ける。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

造形芸術研究科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる学習成果を獲得できるよう、以下を目的としたカリキュラムを編成します。

１　学部における教養教育と専門的素養の基礎の上にたった、さらに幅広い深い技術及び学識を涵養する。
２　造形芸術についての高度な技術及び知識の育成のために、自律的に研究を進める能力を養う。
３　専門知識や技術を社会で活用し、新たな芸術創造の可能性を広げる応用能力を培う。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本研究科の教育理念に基づき、次のような点を入学者選抜の判定の主眼としています。

１　幅広い教養と造形芸術分野の専門的素養を備えているか。
２　専門分野の研究を行うのに必要な基礎的能力を備えているか。
３　現代社会において新しい芸術創造の営みを発信していく強い目的意識、意欲を備えているか。

大学院《音楽芸術研究科》の３つの方針（ポリシー）

ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与の方針）

音楽芸術研究科では、教育の理念に沿った高度な専門教育において成果をあげ、修士演奏、修士作品または修士論文の提出を経て、所定の修了単位を取得した学生に対し、修士（芸術）の学位を授与します。
その際、学生が獲得しておくべき学習成果は以下のとおりです。

１　専門分野における高度な技術力を身につけている。
２　研究分野における高度な研究能力と論理的思考力を身につけている。
３　研究分野における知識、技術を言語化、理論化し、社会に発信する能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

音楽芸術研究科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、講義、演習、実技を組み合わせた授業科目を開講し、修士演奏・作品（副論文含む）並びに修士論文作成のための研究指導を行います。教育課程については、履修表及びカリキュラムマップにより、体系性や各科目間の関係性を示します。

１　研究計画に基づいた研究指導により、専門分野における精緻な技術を身につけます。また、関連科目の履修によって広い視野に立った学識を涵養します。
２　課題探求や洞察に必要な、論理的思考力やコミュニケーションスキル、情報リテラシーなど、研究に必要な基礎的素養を養います。
３　各専門分野で獲得した能力を応用し、高度の専門性が求められる各分野の職業を担い得る卓越した能力を培います。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

音楽芸術研究科は、音楽芸術の各分野における高度な専門的能力を養成することを目的としています。その上で、建学の理念の則り、沖縄の伝統芸術の技法的特徴やそれらの生成した歴史的・文化的・風土的特性等にも配慮した高度な実技教育を行うとともに、芸術の普遍性見地から、ひろく東西の美意識に関わる哲学的・美学的・文化的反省に立つ芸術教育を行います。また、沖縄を中心とした南東文化の多様な実態と伝統芸術文化の特色を解明するために、それらを歴史的・理論的に追給する音楽構造学および民族音楽等の観点から、汎アジア的広がりにおける東洋芸術文化の学際的な教育を行います。これらの教育活動を通じて、芸術文化に対する深い理解と感性を持ち、想像力豊かで、将来の社会における音楽芸術分野の幅広い実践活動を担う演奏家や研究者、芸術教育の場における専門的指導者となり得る人材の育成を図ります。

本研究科の教育理念に基づき、次のような点を入学者専売の判定の主眼としています。

１　幅広い教養と音楽芸術分野の専門的素養を備えているか。
２　専門分野の研究を行うのに必要な基礎的能力を備えているか。
３　現代社会において新しい芸術創造の営みを発信していく強い目的意識、意欲を備えているか。

大学院《芸術文化研究科》の３つの方針（ポリシー）

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

芸術文化学研究科では、研究指導を受け所定の単位を修得し、博士論文等の審査及び試験に合格した学生には、博士課程の修了を認定し、博士（芸術学）の学位を授与します。

比較芸術学研究領域・民族音楽学研究領域における博士論文、芸術表現研究領域における博士論文及び研究作品・研究演奏は、１）その専門分野において高度な研究内容であること、２）創造的、独創的な研究であること、３）その研究が国際的にも貢献できること等の観点から審査します。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

芸術文化学研究科のカリキュラムは、芸術文化についての幅広い見識と、自立して研究活動を行うに必要な高度の能力を養うような教育を行います。博士（芸術学）の学位を取得できるよう、博士論文等の完成を目標とした研究指導を中心に捉え、実技と理論との結びつきを重視した本学ならではの科目である芸術表現総合比較研究Ⅰを必修とし、その他複数の領域の科目を自由に選択する用意授業科目を編成しています。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

１　教育の理念

本学の基本的な理念は、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追究することにあります。これに基づき、芸術文化学研究科は、実技との結びつきを重視した芸術文化に関する高度な理論と応用の教授研究により、芸術文化についての豊かな識見及び自立して研究活動を行うに必要な高度の能力を有する研究者を養成し、もって芸術文化の発展に寄与することを目的としています。

２　本研究科の求める人材

芸術に関する基礎的な知識を備え、自立した研究者となるための意欲と能力と展望を備え

ていることを求めます。

３　入学者選抜の実施

２に掲げる人材を受け入れるため、専門的な学力試験、研究課題に関する口述試験を実施しています。